

■関係団体の活動・行事予定(2013年6~12月)

関係団体の活動予定をお知らせします。様々な機会を通じて多くの皆様に活動に参加していただきたいと思います。

一般社団法人日本障害者乗馬協会(JRAD)

東京障害者乗馬協会(TADER)

「JRAD第21回全国障がい者馬術大会」

日程:2013年10月4~6日
場所:三木ホースランドパーク
問い合わせ:<http://www.jrad.jp/>

「TADER乗馬会」日程・場所(2013年)

6月23日(日)世田谷乗馬会(東京都世田谷公園)
7月7日(日)木曾馬乗馬会(山梨県南都留郡鳴沢村紅葉台木曾馬牧場)
9月8日(日)木曾馬乗馬会
9月29日(日)木曾馬乗馬会
12月15日(日)木曾馬乗馬会
問い合わせ:<http://www.asahi-net.or.jp/~gf9t-inue/trda/>

公益財団法人ハーモニセンター

「誰でも乗馬体験会」

内容:引き馬乗馬、ミニ乗馬レッスン。
幼児から大人、高齢者、障害児者。
日程:2014年2月2日(日)13:30~16:00
場所:ポニースクールかつしか

「葛飾区スポーツフェスティバル」

内容:引き馬乗馬体験コーナー、軽乗演技披露
日程:2013年10月14日(月)体育の日
場所:葛飾区奥戸スポーツセンター

「軽乗フェスティバル」

内容:ポニースクールの子どもたちが24班にわかれ演技。
うち2班が障害児班。
日程:12月22日(日)9:30~15:00
場所:ポニースクールかつしか
問い合わせ:<http://www.pony-harmony.com/>


RDA Japan

「B級インストラクター資格認定試験及び講習会」

内容:RDA Japan認定インストラクター資格試験。両日とも試験前に講習会を行います。今回は活動編の講習会及び試験となります。講習会のみ受講も可能。
日程:7月27日(土)28日(日) 時間は両日とも9:00~夕方
会場:社会福祉法人 恵光園 ヒポクラブ
(〒828-0061 福岡県豊前市大字荒堀37-12
TEL 0979-82-2676)
問い合わせ:RDA Japan事務局 中田 希衣(ナカタ キギヌ)
TEL:080-6519-7818
e-mail:kiginubis@gmail.com
HP:<http://www.rdajapan.com>
なお、今秋後半に同じくB級インストラクター資格認定試験(馬学編)を関東近郊にて二日間開催の予定

*詳細については、それぞれの団体にお問い合わせください。

本協会の活動が「一般財団法人運動器の10年・日本協会」(<http://www.bjd-jp.org/>)のフリーマガジン「Moving」vol.8(2013年5月1日発行)で紹介されました。


ヤンセンファーマ株式会社
URL:<http://www.janssen.co.jp>

私たちが目指すもの： それは、違いをもたらすこと

私たちの大きな使命。それは、今なお応えきれず、患者さんたちが切望する課題に取り組み、これを解決することです。

ヤンセンがとりわけ注力しているのは、5つの大きな治療領域—神経科学、感染症、腫瘍(がん)、免疫疾患および疼痛—です。さらに、当社の製品ポートフォリオは、その他の重要な領域についても扱っています。

私たちは「人を助ける人」でありたい。一統合された知識と資源を使いこなし、卓越した科学の力と可能性に投資して、世界中の人々の寿命とQOLを向上させるために全社一体となって取り組んでいます。

ヤンセンの名のもとに、私たちはあらゆる患者さんのために全力で科学を追求します。

《JTRA 会員になるためには》

NPO日本治療的乗馬協会は、国内外の治療的乗馬や障害者乗馬にかかわる人々、そして関心を持つ人々の相互交流の機会、さらに関連情報の提供などを通じ、この領域の充実と普及を行うことを目的に設立されました。毎年11月に開催している「治療的乗馬研究会」による実践や研究成果の報告と協議、ニュースレターやホームページによる情報の提供を行っています。

本協会は、会員会費、企業等からのご寄付や協賛金によって運営されています。趣旨にご賛同の皆様には、ぜひ会員になっていただけますようお願いいたします。会員になるための手続きにつきましては、ホームページをご覧ください。

<http://jtranet.jp>

【編集後記】

発行が遅れたこととお詫び申し上げます。第1面でご案内しましたように、今年と来年の研究集会は国内の団体で協力し合ったかたちが実現しそうで本当に有り難く、楽しみです。皆様のご参加、お待ちしております。さて、去る3月、ドイツ・ビーレフェルトにあるBethelのENON(<http://www.bethel.de/startseite.html>)、同・ケルンのZentrum für Therapeutisches Reiten e.V(<http://www.ztr-koeln.de/>)オーストリア・ウィーンにあるe.motion(<http://www.pferd-emotion.at/index.php>)を訪問してきました。ENONとe.motionは以前から訪問したいと思ってようやくそれができました。3施設に共通していることは、馬の多数の群による日常的な放牧を重視していることです。そして、子どもたちの馬との付き合いについて「ああしなさい」「こうしてはいけない」と言わないことです。その背景には、馬に対する理解と信頼、子どもたちの自立した存在を尊重するといったことがあると感じます。どの施設の人々も、日本におけるこの領域の発展を願っていると伝えてくれました。

(滝坂信一/本会理事長)



特定非営利活動法人
日本治療的乗馬協会



2013.Jun.9.Vol.13
<http://jtranet.jp>

JTRA Newsletter

Japan Therapeutic Riding Association

編集・発行: 特定非営利活動法人 日本治療的乗馬協会 〒161-0031 東京都新宿区西落合2-6-6 Tel.03-3565-6641



Zentrum für Therapeutisches Reiten e.V.にて

「治療的乗馬」研究会2013

治療的乗馬や障害者乗馬の領域で実践や研究に携わる人々、関心をもつ人々が集い、実践活動や研究の報告そして記念講演をもとに協議や情報の交換を行います。

今年で第9回目となる研究会は、全日本障害者乗馬連盟(ANTRA)、公益財団法人ハーモニセンター、一般社団法人日本障害者乗馬協会(JRAD)、特定非営利活動法人RDA Japanの大きな協力をいただいて開催します。各地から多くの皆様のご参加をいただきますようご案内いたします。

<大会テーマ>

<環>;豊かな活動を実現する人と人とのつながりを考える

趣 旨: 治療的乗馬や障害者乗馬の活動が様々な人々の豊かなつながりを創りだし、そのことがより充実した活動の展開につながっていくことを、多くの関係者は実感しています。今回は、馬をパートナーとして人の心身の健康や生活の質の向上に関する活動を行うことに関わる人々の声に耳を傾けるそして活動を行う人のネットワークを視野に、活動の質の充実を考えていきたいと思えます。

会 期: 2013年11月9日(土)・10日(日)
場 所: 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟402号室
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
(小田急線「参宮橋」駅下車徒歩約7分)
主 催: 特定非営利活動法人 日本治療的乗馬協会
日 程: 2013年11月9日(土)
12:30~13:00 受付
13:00~13:15 開会式
13:15~14:00 ショートレクチャー
14:00~16:00 学生・大学院生等による報告・発表
16:00~17:30 実践・研究報告①
18:00~ 情報交換会

2013年11月10日(日)
9:00~10:20 実践・研究報告②
10:20~10:30 休憩
10:30~12:00 記念講演「野外の活動とリスクマネジメント」(仮)
(岐阜女子大学 文化創造学部文化創造学科 教授、井上 透氏 同文化情報研究センター長)
12:00~13:00 昼食
13:00~14:20 実践・研究報告③
14:20~14:30 休憩
14:30~15:50 実践・研究報告④
15:50~16:00 閉会式
参加費: 2日間 会員 5,000円 / 一般 7,000円 / 学生 3,000円
(3・4日のどちらか) 1日間 会員 3,000円 / 一般 4,000円 / 学生 2,000円

*参加費には資料代、情報交換と懇親の会費を含みます。
*「学生・大学院生等による報告・発表」は次の世代を担う人々のための時間です。積極的な参加を募ります。*参加および実践・研究報告の申込みの詳細は、JTRAホームページをご覧ください。

ポニーのいる学校 [第7回]



埼玉県立深谷はばたき特別支援学校 教諭
(平成25年度から、筑波大学附属久浜特別支援学校 教諭)

小松 文

2月21日に長野県立木曾養護学校の梅内先生と、いつもお世話になっている治療的乗馬協会の深野聡さん(社団法人東京乗馬倶楽部)、中川剛さん(木曾馬の里「木曾馬乗馬センター」)、滝坂信一先生(帝京科学大学)が来校されました。そして、研究集会でも発表した「メロンを使った授業」を見ていただきました。

- ・人とポニーが意識をし合って活動する
- ・ラインに沿って歩くのはポニーにとっても目安になる
- ・安全に活動する(必ずつなく、教員は必ず子どもと一緒に中に入るなど)
- ・作業を別にする(メロンはつなく、子どもが掃除するなど)
- ・場所を変える(食べる場所、ブラッシングする場所、休憩する場所)
- ・合図を共有し、叱るとき褒めるときラインを細かくきめておく
- ・直角にまがる活動はポニーには難しい
- ・子どもがあいさつをして始まりや終わりを意識するときに、メロンも意識するために無口をつけたりつないだりする
- ・えさを踏まない
- ・倉庫の中を整理する
- ・無口や引き手はメロンの近くに置いておく



など、環境と活動を整理するための内容についてご示唆いただきました。メロンが食べている間を私たちは世話するために安全な時間と捉えていましたが、確かに子どもとメロンの意識が向き合っていないと気づくことができました。どうしてポニー(馬)なのか、といった疑問に、「体が大きいのでグループでかかわることができる」という答えをひとつ見つけたようなつもりでいましたが、ポニーが人を意識していない(食べている)状況では、ポニーを使う意味がないことに気づきました。また子どもにもメロンにも活動がわかりやすくなるために場所を変えることなどは、すぐに実現できないかも知れませんが、これから少しずつ、整えていきたいと思えます。残念なことに、多くの職員が別の指導中のため直接お話することができませんでしたが、いただいたご意見はポニー共育推進委員会のメンバー全員で共有して、良い環境、良い活動に近づいていきたいと一致した意見をもつことができました。



メロンと出会ってちょうど2年です。2年経った今でも、体調が悪いのではないかと心配が尽きません。でも、その心配な気持ち以上に、教員の仕事をしながらポニーにかかわることができるのは、本当に楽しいことではないかと感じました。子どもがメロンとかかわって嬉しそうな表情をしたり自信をつけていったりする素敵な光景を、私は毎日見ることができました。



私にとっては楽しいことが、他の職員にとっては大きな負担になるかもしれないとわかってはいますが、3月いっぱいまで異動、このニュースレターがお手元に届く頃は他の学校で仕事をしていることになりました。どうか少しでも多くの職員が「メロンがいる学校に勤務できて良かったな」と感じてほしい、そして、子どもたちの教育活動に活かすための方法をたくさん見つけてほしいと願っています。メロンは新年度のはばたき全職員にお願いし、この連載は同僚である田中恵教諭に引き継ぎます。皆様におかれましては、これからも、どうか、はばたき特別支援学校とメロンを温かく見守っててください。よろしくお願い致します。



ドイツ乗馬(施設)レポート [第6回] ~Carolinenhof~

在・ドイツNRW州
佐久川 未来

<経歴>東京都立川市生まれ/日本獣医学産大学 畜産学科(現・日本獣医学生命科学大学) ヤマハつま恋乗馬クラブ勤務/ドイツ国際平和村にて1年間の研修 LVR Fachschule des Sozialwesens卒/Heilerziehungspflegerin(障害児者教育・介護士)の資格取得 ユッセルドルフの特別支援学校にて、インテグレーションヘルパーとして勤務 ドイツ馬術連盟公認乗馬トレーナー資格を取得/ドイツ治療的乗馬協会の研修プログラムに参加中

私が現在参加している“馬を介した特殊教育的支援の専門家”資格取得プログラム(2年)の授業の一環として、今年1月ノルドライン・ヴェストファーレン州にあるCarolinenhofを訪問しました。



施設入り口の看板

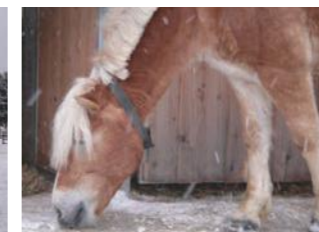
インテグレーション乗馬施設 Carolinenhof

ドイツルール地方・エッセン市郊外の自然あふれる環境の中に、乗馬施設“Carolinenhof”はあります(ドイツ治療的乗馬協会の公認施設)。「障害を持つ人も持たない人も共に乗馬を楽しみ、互いに学び合おう!」をコンセプトに2012年リニューアルオープンし、現在すでに子どもから大人まで120名ほどが施設を利用しています。また、この施設の開設にあたり、Stiftung Regenbogen(レインボー財団)を設立。ハンディキャップをもつ人々が乗馬をする際、ある一定の基準を満たせば資金的援助が受けられるシステムもあります。

6ヘクタールの敷地には、2つの屋外馬場、放牧場、調馬索用馬場、屋内馬場、厩舎、事務所、休憩所、セラピールームが設備され、人にとっても馬にとっても理想的な環境といっても過言ではない程です。「特に馬の特性を考慮した飼育管理にこだわり、アクティブ厩舎を建設しました。」と責任者のSilke Meyer zu Riemslohが真新しい厩舎を案内してくれました。4000平方メートルの開放型厩舎には、いわゆる馬房は存在せず、2か所の馬が横になれる屋根つきの場所と餌場(濃厚飼料、粗飼料)のみで、18頭のセラピーホースたちが1つの群れの中で一緒に暮らしています。こうした飼育環境により、数か月もすると自然と馬社会の順位が明確になります。つまり、複数の馬が同時に馬場内にいるような状況(乗馬レッスン)でも、馬同士の争いがほとんどないため、インストラクターはリラックスした状態の馬たちを使うことができます。厩舎では、すべての馬の頸にチップ付きのバンドが装着され、餌場ではそのチップに登録された個体情報に合せて餌が出てくる仕組みになっています。草を食んでは動き、草を食んでは動くという馬本来の習性に習い、粗飼料(乾草など)は1日中少量ずつを複数回与えるようにプログラムされています。



馬が横になれる場所(手前と奥の建物)と餌場(中央)



個体識別チップ



室内馬場

乗馬・治療的乗馬の実践

ドイツ治療的乗馬協会の資格を持った5人のスタッフ(パート)が、理学療法・心理&教育・スポーツの3領域で治療的乗馬の実践を行っています。また、障害を持つ人と持たない人が一緒に乗馬や軽乗のレッスンを受けるインテグレーショングループも設けられています(ホームページ動画参照)。上記のスタッフのほか、ペライターと呼ばれる馬の調教を専門に行うスタッフが、治療的乗馬だけではなく馬の運動をケアしています。その他20人ほどのボランティアスタッフが活動を支援しています。



車いす利用者も手が届く馬具の配置 幅の広いランプとリフト(おもにヒポセラピー用)

治療的乗馬に使われる馬の馴致の様子

1月にCarolinenhofを訪れたときに、普段行われているセラピーホースの基礎調教、馴致を実際に体験させてもらうことができました。馬が驚きそうで日常によくある物を屋内馬場に用意し、時間をかけて“馬の側から”その物を探らせ安全だと認識させるというものでした(例:車いす、ビニールシート、傘、ごみ収集箱、空き缶の入ったごみ袋、ボール、乗り手の装具など)。経験のある馴致のできた馬も、他の若い馬同様、週に1~2回トレーニングが行われます。夏場は屋外でトレーニングを実施したり、よく外乗に出かけたりするそうです。



参考: <http://carolinenhof.org/wordpress/>
動画(上記ホームページより)
http://www.youtube.com/watch?v=eVU5uGwH6ZA&feature=player_embedded

*動画解説:冒頭、画面上はインテグレーション乗馬レッスンの様子(4名のうち2名はハンディキャップを持つライダー)、画面下は、治療教育(特殊教育)的軽乗の風景(馬上は自閉症と多動症を持つ男の子)。次の場面では、室内馬場で男の子のヒポセラピーの様子。